



空海説



色とありて。花鳥風月とりくわさぶ
とありて。仁義徳智信とありて。人乃
善惡の教あり。又天台宗テウダイシュウ空相クウサウ中チュウと亦有亦
空門乃四門を底よあきて。盛セウ者シャ必ヒツ衰スイの
理をありて。桐臺の淨門より初とあり
分業上源氏一教の另法業於此ニ一と
ありて。もくそへい云くられ。只此心とありて。諸
人其の道とありて。めん者の善法物徳のちを
とりて。よつとよや。天台宗の三教一ニの三サ教サウ
教二ニの通教三ニの別教四ニの圓教也ト。比
内三教ハ界内カイナイの事と教ハ通教ハ界内カイナイの
理と教ハ別教ハ界外カイガイの事と教ハ圓教

ハ界外の理を教とありて。是法ホウ法ホウ深シ深シ
の法身也。是ハ法門のちの源氏ゲンジのちのよあ
らびに四教ハ花嚴ケガン阿含アカン方等ハウドウ般若ハンニヤ法華ホフワ
涅槃ネはん五時を四よよけて。法ホウ法ホウ一ニと四教
とあり。六ロクなるれとも涅槃を法花よ入ニり
法相よい又時を三よ分て。四教よ三門空
門也。此空門亦有亦空門をわつる。三教
よいつれも四ありて。三とありて。も分て
を阿ハ三教教よ三門のちの通教に空
門。圓教よ此も此も別教よ亦ありて。亦
空あり
又曰。涅槃の句宮卷乃經よ述ゲテ云クニ。法ホウ法ホウ深シ深シ

雲隱と名付くは万葉の奇なり
有名無実事天竺四門より傳ふ之は河海
空假中事有源氏物語中此物語作物
傳ふれん空道也又此延喜者假諱也
雲隱中道也釈者又時教と曰此物語
亦人意人又二十四指亦空く意人
又源氏雲隱之後源氏傳は
且是ハ又亦亦空く

此物語先書好色道終亦佛道之意可見
水波之傳有之又云雲隱之事此物語中
貴人義色等無事并表情多定自相愛
望業上脱本盡了故光源氏終焉不

定也若書之者可言佛道新也又云源氏
仍雲隱卷之中讓之也云々幻卷與此
卷之乃九年々々一葉の年幻卷
中てみやく六ヤ一り十四葉中て九年

愚案此咲花の伝は河海花名乃女
抄を合を交へてある云々云々
今更にわけてあると云々及びと云々細
流の雲隱乃此伝は河海花名乃女
よりわたり無津抄の雲隱乃此伝は
色云々この女抄は云々云々云々
云々云々好事の字云々云々云々

河
一 雲隠れと名づく歌あり

世をいふ事ありあり一 只名とありくその心を
歌とありは名をいして六条院ひかり隠れあ
ふ心ありありく此詞作と集ありと教ありあ
どもと万葉集よ人の逝まるとと世を隠
まといつり

万二
一 削皇子薨時置始東人歌

大君々祐ありありゆとばわぬ雲のひか
への下にくれまぬ

万三
一 大伴皇子被死時作歌

百傳
りつきの岩根の池よ鳴鴨をさふのこ

万三
一 云隠れと名づく歌あり

神龜六年元大臣長屋王賜死之時作歌
大君のえうとくことゆわくごのけよは

万
一 云隠れと名づく歌あり

天平七年新羅尼理願死去時大伴房女悲
嘆作歌

とめえぬ命ありわれいぬめのあふり出
て雲がくれよとこのおちるど作とてこよ
とば綱を 逝まのまよありとて

雲がくれありとわする月くれ

一 名づくりともありと巻とてぬ

天台所立四教

三藏教 通教 四門

有門空門非有

非空門亦有亦

有門乃得道ハビ昆曇論ハビ空門明道ハビ成實

論ハビ明ハビ非有ハビ非空門ハビ迦旃經ハビ說ハビ

亦有亦空門ハビ昆動論ハビのめハビをりハビとハビとハビげハビど

とは經論ハビ天竺ハビよハビとハビりハビてハビ漢ハビおハビよハビ持ハビ来

せハビ法ハビちハビらハビとハビ大師ハビ有門ハビ空門ハビの義ハビ也ハビらハビ

ていハビちハビとハビ經論ハビをハビりハビとハビりハビ因別ハビ二教ハビとハビ判

しハビちハビふハビ不思議ハビをハビりハビ今ハビのハビ雲ハビ々ハビのハビ是ハビ

とハビ作者ハビのハビ胸ハビ中ハビにハビとハビ海ハビりハビてハビ世ハビはハビ傳ハビく

どハビやハビ如ハビもハビせんハビ證ハビとハビりハビ不ハビ六ハビ宗ハビ院ハビ崩ハビ壊ハビと

わハビらハビしハビよハビいハビふハビ諸ハビのハビ名ハビよハビとハビあハビらハビる

從ハビ甚ハビ原ハビらハビりハビよハビやハビ凡ハビ上ハビ古ハビ名ハビ賢ハビのハビ中ハビにハビ終

義源氏ハ不悉然ト
ハ不可謂之此例不
當

のやうと人々をさしごりし中ハビ武ハビ内ハビ大ハビ法ハビ以下ハビをハビ例

多し幸朝ハビ神ハビ仙ハビ傳ハビをハビりハビとハビ多ハビくハビ見ハビえ

らり又ハビ如ハビきハビのハビ乃ハビ先ハビ達ハビ業ハビ平ハビ朝ハビ臣ハビ芳ハビ野

川の河上ハビ乃ハビ窟ハビてハビんのハビ川ハビよハビ入ハビ定ハビしハビらハビりハビよ

一徳所の縁起よとありとあり

六宗院頓滅之事

黃帝ハビのハビ天ハビにハビのハビかりハビしハビにハビ比ハビ擬ハビとハビりハビとハビ中ハビ右

の先達ハビやハビとハビをハビりハビ物ハビがハビらハビりハビのハビかりハビてハビよハビ所ハビ見ハビる

し今案ハビとハビりハビとハビりハビ宿ハビ本ハビのハビ考ハビよハビいハビはハビとハビい

おの初ハビはハビ故ハビ院ハビ失ハビ多ハビひハビてハビ後ハビ三ハビ年ハビ斗ハビ未ハビに

世ハビとハビしハビとハビまハビひハビしハビ後ハビ徹ハビ流ハビめハビとハビ六ハビ宗ハビ院ハビよ

とハビらハビしハビのハビぞハビくハビ人ハビのハビ心ハビめハビさハビめハビんハビとハビらハビりハビやハビん

義は河之後正義也

作りつらといつる世とのづれく源藏院より
源右よりまてさうさうしつりど雲うられの
巻とく一帖まうらその巻中の久遊ん
りりぐさ其回よ朱雀院共の文致は
政大臣ヒゲ黒大臣クロ以下の人多く多うせられ
しり何とて六条院ぐらり源藏といふ
みや又共の文意中お幻巻のまを下に
幼雅コウヤとみくしり十四巻あく白共の巻に
これえ服あり中侍侍候とみくしり是ふ
みく思ひ合さる

此巻と名のまて其綱いあしりその
詞わらば朱雀院の昇遊ヒウカのゆきそのまて

よらりて雲隠れとい名付作り幻巻を
終よ感年の目まてさうさうを終よ六条
院ハ源藏よりまてのまてはあつせりり
紫明抄より作りねれ者本巻よ六条院世
とそしつるまて二三年ぐらりさうの院よ
隠居よりまてさうさうこれハ此綱とて源
藏のまて河海よまてられまらりぬ幻巻よ
い意とねハふ業の所より白共の巻の始
よひりりられまてしつりし綱を白共
巻よひりり十四巻之故よ意と六条より
十三まてのる八十年のまハ物語の面よ
いんてゆきびまてさうさうは雲隠れの巻中

義毛詩中九
 南陵ハ孝子相戒テ
以養也
 白華ハ孝子潔糸息
 萃黍ハ時和歳豊
ニテ空黍稷也有其
義而王其辭也
 由庚ハ万物得由其
道也
 崇丘ハ万物得極其
高大也
 田賦ハ万物之生各得
其宜也

よごの地よ三二年海岳してその後崩
 壊し多しと世をよ調わくがまら次
 へて之抄世卷の名づりまきて調をんぬ
 事天台の四教乃法門を例よりされど
 古代物をさる地し作り信書をとりてい
 らむ毛詩の小雅の中に南陵白華之黍
ヲカクソクキウヲギ
 由庚崇丘由儀の六篇八篇の名のそあり
 て調のりそハ逸詩とひてりとい調を
 しぐらせりそそそにりて東唐傲とい
 し人調を作りて補亡の詩と名付て文
 選の第十の卷よりせり朱梅庵ハ
 詩といひく樂曲の名るれんその調ん

りしりりわえりしと秋し作りいし海
 篇の名乃とまそそその調をそそと調し
 愚按細流乃雲浪の四流も咲花の流
 と界しそそあよ似たりそそと白文卷の
 端よまらそそゆいし今そそはらそそ
 蓋自六卷至十三卷ハ八年のそ編脱し
 び九ヶ年のそ可在雲浪卷之中也其故
白文卷
 ハ幻卷ん九ハ卷ハ九七也ハ中間よ九六
 雲りられとのそ卷の起号とまそそ実りし
 を考ると不書是則等えのそ樹し
 源氏一世之行状徳厚ク譽高ク才智人ニ勝
 し栄花世ニ起タリ然レハ其身終之を後普

通ノ後ヲ以テ不可符合也。司馬遷班固范曄温公モ筆力不可及。緇或木食草衣隱道修行之儀。雖如佛在世之時。每其奇特。若又現神變。不思議者。人不可信之。或入滅之時。聖衆如星列。紫臺ノ雲ヲ引テ親來迎ノ相ヲ示シ。モソレハ目馴テ尋常ノ物語ニ似タルヘシ。人夫悲ヲナシ。五十二類悲諦啼泣ノ想ハ佛ノ涅槃ニ尽ヌシハ是亦事四アリ。若又登仙換骨シテ共形骸不留ト云トモ頗可似虚誕。依之同文取不及一言之短却而盡善盡美者也。

上葵上柏木六条。御息所紫上大君等也。

薄雲 桐壺帝 本ニナシ私入之ヲ

是等ニ皆事盡ヌシハ大方ノ筆力ニテ不可符合。左去此上ヲモ一廉ノ文章ヲ耀スベキ筆ハ式部ガ手ノ内ニ有トシルベシ。筆不及メ文ヲ闕ストハ不可見。一切ノ事不言之如妙處アリト云事ヲ示ス美也。維摩一默則千言万答是也。猶河苑ノ夜咲花ノ夜ホモリヘリノあり畧シ
愚案ニ世ノ源氏物語ノり六十帖と云ハ有リテ只六十四帖あり。云隱乃出也。名づりあり。そそ綱と云ハ。そそり。定也。そ中よ。うくめ。うづ。そそ。そそ。そそ。の妙術

勢之云あり申法抄よりありされ年。あり
り。後人雲原の巻をなさうらひ。攝人
巢也刺櫛。八橋。碓氷野。と下まとい
ふ巻をさうらひり。六十帖の教を滿一
めんとあや。ま文種ありつりあし。もを養
も亦はうらひ。桃花の系圖乃かくにそ
巻の名づりあり。さうらひもてまのしと
を同くくひ。二まを月ひあんとそ。その
法抄一切り。を法抄よとよぶされを
を信明よとよぶ。物さうらひ。ことれ此
物語六十帖。へ天名の六十巻に推せり。
そ天名六十巻も止観は関あり。す

前よありり。されん。葉式ア。述べ巻
より。六十帖よ。さうらひ。めありぬ
も。ありり。や。け雲原の八年れ。る
よ。光源氏朱雀院の崩御。致仕大臣。舞
黒大臣。當らる。等れ。薨。そ。卯女。三文の
三條。文。あり。ら。り。あり。り。人。て。位
昇進の事。あり。り。事。の。事。こ。り。れ
る。を。方。述。次。り。考。る。こ。よ。致。成。り。り。
し。と。う。ら。ん。ら。と。律。を。作。り。り。り。り。



